

1. 略歴

1983年3月	東京大学文学部美学芸術学専修課程卒業
1983年4月	同大学院総合文化研究科比較文学比較文化専門課程修士課程入学
1985年3月	同修士課程修了
1985年4月	同博士課程進学
1989年3月	同博士課程単位取得退学
1989年4月	和洋女子大学文家政学部英文学科専任講師
1994年4月	和洋女子大学文家政学部英文学科助教授
1998年4月	和洋女子大学人文学部国際社会学科助教授
2003年4月	和洋女子大学人文学部国際社会学科教授
2008年4月	和洋女子大学人文学群日本文学・文化学類教授
2015年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 著書

- 『虚構世界の存在論』, 勁草書房, 1995年4月, 434p. (韓国語訳: Greenbee Publishing Co., 2013年8月, 368p.)
- 『可能世界の哲学 「存在」と「自己」を考える』, NHKブックス, 1997年2月, 247p. (韓国語訳: Greenbee Publishing Co., 2011年8月, 240p.)
- 『論理学入門 推論のセンスとテクニックのために』, NHKブックス, 2000年9月, 250p. (韓国語訳: Rubybox Publishing Co., 2007年1月, 276p.)
- 『ラッセルのパラドクス』, 岩波新書, 2005年10月, 228p.
- 『ゼロからの論証』, 青土社, 2006年7月, 274p.
- 『多宇宙と輪廻転生 人間原理のパラドクス』, 青土社, 2007年12月, 378p.

(2) 論文

- 「結ばれ, 了解, 異文化, 鼠 R. D. レインの視線」, 『比較文学・文化論集』第2号, 1985年9月, pp.37-52.
- 「ラッセルとベトナム戦争 倫理の核時代」, 『比較文学・文化論集』第3号, 1986年5月, pp.86-98.
- 「核時代における階層の問題 内藤酬 『核時代の思想史的研究』から」, 『比較思想雑誌』第6号, 1986年9月, pp.57-71.
- 「バートランド・ラッセルと中国・日本」, 『比較文学』第29巻, 1987年3月, pp.7-21.
- 「事実の錯誤と法律の錯誤 二つの大審院判例から脱構築論争へ」, 『比較文学・文化論集』第5号, 1987年11月, pp.46-61.
- 「風雅のパラドクスと芭蕉 「枯野をかけめぐる」ものの考察 研究ノート」, 『比較文学』第31巻, 1989年3月, pp.115-127.
- 「風雅のパラドクスと芭蕉 「枯野をかけめぐる」ものの考察」, 『比較文学・文化論集』第6号, 1989年5月, pp.4-23.
- 「芸術作品と同一性 ニュークリティシズムとその論敵の哲学的基礎」, 『和洋女子大学紀要(文系編)』第30集, 1990年3月, pp.1-16.
- 「指示対象としての芸術作品」, 『和洋女子大学英文学会誌』第24巻, 1990年3月, pp.1-16.
- 「虚構世界の存在論的地位」, 『和洋女子大学英文学会誌』第25巻, 1991年3月, pp.1-26.
- 「虚構世界と可能世界 fictional logic 批判」, 『和洋女子大学英文学会誌』第26巻, 1992年3月, pp.17-30.
- 「フィクションにおける矛盾と論理法則」, 『和洋女子大学英文学会誌』第28巻, 1994年3月, pp.1-41.
- 「他者, 言語, 制度 SF的想像力と言語規制」, 鶴田欣也編 『日本文学における 他者』, 新曜社, 1994年11月, pp.69-81.
- 「可能世界を名指すこと 固有名と記述の隙間から」, 『現代思想』1995年4月号, pp.102-111.
- 「20世紀文化にとってパロディーとは何だったか」, 荻野アンナ・夏石番矢・復本一郎編 『シリーズ俳句世界6 パロディーの世紀』, 雄山閣出版, 1997年10月, pp.170-179.

- 「文明の終焉と非同一性問題 「世代」「種」を超える倫理へ」, 岐阜県産業経済研究センター『岐阜を考える』100号記念号, 1999年8月, pp.75-79.
- 「人間原理と独我論 「私」の位置の再解釈」, 『和洋女子大学紀要(文系編)』第40集, 2000年3月, pp.17-33.
- 「多重人格と輪廻」, 『ユリイカ』2000年4月号, pp.156-164.
- 「可能世界とシミュレーション・ゲーム オメガ点理論の人間原理的解釈」, 『大航海』No.42, 2002年3月, pp.137-143.
- 「意識の超難問」の論理分析」, 『科学哲学』第35巻2号, 2002年11月, pp.69-81.
- 「観測選択効果と多宇宙説 伊藤邦武『偶然の宇宙』について」, 『科学哲学』36巻1号, 2003年7月, pp.121-134.
- 「ファンタジーとしての 私の宇宙 虚構の美的選択 自己の観測選択」, 『大航海』No.49, 2003年12月, pp.114-123.
- 「人間原理的推論における「この宇宙」」, 『科学基礎論研究』第32巻2号, 2005年3月, pp.31-38.
- 「強い人間原理」のための8つの要請」, 『宇宙論における人間原理に関する自然哲学的研究』研究成果報告書(文
科省科研費基盤研究B(1), 課題番号13480002, 代表: 横山輝雄), 2005年3月, pp.48-72.
- 「ニュートン・アインシュタインをダーウィン化する」, 『現代思想』2005年10月号, pp.116-132.
- 「自然選択説が選択する, 不自然な自然選択」, 『現代思想』2006年2月号, pp.99-111.
- 「概念的命題, 反経験的命題の確率的確証」, 『偶然性と確実性に関する哲学的・理論的研究』研究成果報告書(文
科省科研費基盤研究B(1), 課題番号15320006, 代表: 服部裕幸), 2006年3月, pp.61-78.
- 「人間原理のパラドクス ~」, 『現代思想』2006年11月号~2007年10月号連載
- 「人間原理のクオリア論」, 長滝祥司・柴田正良・美濃正編『感情とクオリアの謎』, 昭和堂, 2008年3月, pp.151-172.
- 「必然・可能・現実 様相の形而上学」, 『形而上学の現在』(『岩波講座 哲学』第2巻), 岩波書店, 2008年8月, pp.93-111.
- 「進化美学の可能性 美の自然化と芸術の反自然化」, 『哲学の探究』第37号, 2010年6月, pp.37-50.
- 「逃亡からの逃亡 『砂の女』の 終わり」, 『国文学 解釈と鑑賞』9月号, 2010年8月, pp.149-157.
- "Bertrand Russell and Japan", Hugh Cortazzi (ed.), *Britain and Japan: Biographical Portraits Vol. VII*, Global Oriental Ltd., 2010年9月, pp.255-267.
- 「パフォーマンスの逆説 「短命」の枕から」, 『ユリイカ』2012年2月号, pp.178-185.
- 「ヒューマニズムによる文学の哲学化」, 戸田山和久・美濃正・出口康夫編『これが応用哲学だ!』, 大隅書店, 2012年5月, pp.179-186.
- 「フィクションとシミュレーション 芸術制作の方法論からジャンル論へ」, 中村靖子編『虚構の形而上学 「あること」と「ないこと」のあいだで』, 春風社, 2015年2月, pp.361-442
- 「サウンドホライズンに見る芸術と政治の接点 研究ノート」, 『和洋國文研究』第50号2015年3月, pp.94-107
討論論文
- 「虚構の対象の指示をめぐる混乱について」, 『科学哲学』第33巻1号, 2000年5月, pp.85-87.
- 「討論: B.ラッセルをめぐる諸疑問, とくに様相の形而上学について」, 『科学基礎論研究』第35巻1号, 2007年12月, pp.39-45.
- 「点滅論法」の誤謬について」(柴田正良と共著), 『科学哲学』第44巻1号, 2011年7月, pp.91-93.
- (3) 項目執筆等
- 「鈴木大拙」「ラッセル」, 伊東俊太郎他編著『世界から見た日本・小事典』, エッソ石油, 1988年12月.
- 「タゴール」「田辺元」他28項目, 尾崎秀樹他編『新潮日本人辞典』, 新潮社, 1991年3月.
- 「ソール・クリプキ」, 『大航海』1999年6月号(特集: 知の先端の18人), pp.132-137.
- 「虚構」, 永井均他編『事典・哲学の木』, 講談社, 2002年3月, pp.264-267.
- 「アナロジー」「演繹と帰納」「可能世界」「虚構」「推論」「パラドクス」「様相」, 坂本百大他編『記号学大事典』, 柏書房, 2002年5月.
- 「原爆投下について論じることには意味がある」, 伊勢田哲治他編『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会, 2013年4月, pp.260-264.
- (4) 書評(抄)
- Irving Babbitt, *The New Laokoon; an essay on the confusion of the arts*, 『比較文学研究』第49号, 1986年4月, pp.175-181.
- 小倉脩三「夏目漱石 ウィリアム・ジェームズ受容の周辺」, 『比較文学』第32巻, 1990年3月, pp.138-142.

- Mario J. Valdés, *World-making: The Literary Truth-Claim and the Interpretation of Texts*, 『比較文学研究』第63号, 1993年6月, pp.134-141.
- R. モンク『ウィトゲンシュタイン1, 2』, B. マクギネス『ウィトゲンシュタイン評伝 若き日のルードヴィヒ、1889-1921』, 『文学界』1995年3月号, pp.292-295.
- Giovanna Borradori, *The American Philosopher*, 『イマーゴ』1995年11月号, pp. 332-333.
- 柳瀬尚紀『ジェイムズ・ジョイスの謎を解く』, 『すばる』1996年4月号, p.291.
- J. R. ヴァレリー『科学者たちのポール・ヴァレリー』, 『週刊読書人』1996年7月12日号.
- 丹治信春『クワイン』, 『論座』1998年3月号, pp.272-273.
- レイモンド・スマリヤン『シャーロック・ホームズのチェスミステリー』, 『論座』1998年9月号, pp.266-267.
- 土屋賢二『人間は笑う葦である』, 『週刊読書人』1998年9月4日号.
- ジョン・レスリー『世界の終焉』, 『論座』1999年2月号, pp.262-264.
- 野矢茂樹『哲学・航海日誌』, 『論座』1999年7月号, pp.256-257.
- 黒田巨・野本和幸編『フレーゲ著作集4』, 『週刊読書人』2000年1月14日号.
- ポール・エドワーズ『輪廻体験』, 『論座』2000年3月号, pp.322-323.
- ウラジーミル・ナボコフ『ディフェンス』, 『日本ナボコフ協会会報 Krug』Vol. -No.2, 2000年4月, pp.11-13.
- 永井均『マンガは哲学する』, 『論座』2000年5月号, pp.304-305.
- リー・スモーリン『宇宙は自ら進化した』, 『論座』2000年12月号, pp.318-320.
- 柴田正良『ロボットの心 7つの哲学物語』, 『論座』2002年4月号, pp.324-325.
- 「新書だけで学び直す一般教養15講+ 7論理学」, 『論座』2002年7月号, pp.207-209.
- 戸田山和久『知識の哲学』, 『論座』2002年9月号, pp.312-313.
- 上村芳郎『クローン人間の倫理』, 『論座』2003年4月号, pp.315-317.
- キングズレー・ブラウン『女より男の給料が高いわけ』, 『論座』2003年8月号, pp.317-319.
- ジョンジョー・マクファデン『量子進化』, 『論座』2003年12月号, pp.320-322.
- 田中一之編『ゲーデルと20世紀の論理学(1) ゲーデルの20世紀』『科学哲学』第40巻2号 2007年12月 pp.71-73.
- リチャード・ドーキンス『神は妄想である 宗教との決別』, 『科学』2008年7月号, pp.797-798.
- 川野洋『ネットワーク美学の誕生 「下からの総合」の世界に向けて』, 『和洋国文研究』第46号, 2010年3月, pp.60-63.

(5) 口頭発表

- 「風雅のパラドクスと芭蕉 「枯野をかけめぐる」ものの考察」(第23回日本比較文学会関西支部大会, 1987年11月8日, 関西大学)
- 「虚構の対象と可能世界」(「名古屋哲学フォーラム'97」, 1997年9月6日, 南山大学)
- 「展覧会サプリメントとしてのカタログ」(比較文学・比較文化フォーラム・シンポジウム「知の共有財産・展覧会カタログの現在 制作から批評まで」, 2003年7月5日, 東京大学駒場キャンパス)
- 「真理の余剰説」について」(日本科学哲学会第36回大会ワークショップ「ラムジー生誕100年を記念して」, 2003年11月16日, 千葉工業大学)
- 「人間原理と生物進化論 観測選択効果と自然選択効果」(日本科学哲学会第37回大会ワークショップ「人間原理」, 2004年10月3日, 京都大学)
- 「ラッセルの Noise Claim について」(第25回 PaSTA 研究会: 'On Denoting' 100周年記念ワークショップ, 2005年6月25日, 京都大学)
- 「ポツダム宣言の語用論 4つのトリック」(日英言語文化学会 第17回例会, 2008年4月12日, 明治大学)
- 「進化美学の可能性 美の自然化と芸術の反自然化」(哲学若手研究者フォーラム「テーマレクチャー: 分析美学の現在」, 2009年7月18日, 国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 「原爆投下をめぐる天祐論, 天災論, 天命論 大江健三郎『ヒロシマ・ノート』のヒューマニズム観より」(第6回総合学術文化学会・学術研究会, 2010年3月13日, 亜細亜大学)
- 「ヒューマニズムによるブンガクのテツガク化」(応用哲学会第2回年次研究大会 公開シンポジウム「テツガクとブンガクと...」, 2010年4月25日, 北海道大学)
- 「観念論的世界観の物理主義的基礎」(科学基礎論学会2011年度秋の研究例会ワークショップ「夢, 時間, 自己同一性の哲学」, 2011年11月6日, 日本大学文理学部)
- 「フィクションとシミュレーション」(名古屋大学・文学研究科公開シンポジウム「虚構とは何か ありそうでなさそうで, やっぱあるものの形而上学」, 2013年3月2日, 名古屋大学)

(6) 単行本

- 『論理パラドクス 論証力を磨く 99 問』, 二見書房, 2002 年 10 月, 206p.
『論理学がわかる事典』, 日本実業出版社, 2004 年 2 月, 286p.
『戦争論理学 あの原爆投下を考える 62 問』, 二見書房, 2008 年 9 月, 288p.
『思考実験リアルゲーム 知的勝ち残りのために』, 二見書房, 2014 年 3 月, 263p.
『天才児のための論理思考入門』 河出書房新社, 2015 年 6 月, 186p.

(7) 雑誌記事

- 「大正の日本とラッセル」, 『TBS 調査情報』1988 年 8 月号, pp.4-9.
「ポシブル・ワールド入門(瞑想導入編)」, 『文藝』1994 年冬季号, pp.280-285.
「1995 年 1 月の日記」, 『早稲田文学』1995 年 4 月号, pp.40-45.
「反感情としての笑い」, 『イマーゴ』1995 年 3 月号, pp.106-115.
「非カルトという癌」, 『イマーゴ』1995 年 8 月号, pp.40-46.
「一撃必殺という妄想」, 『イマーゴ』1995 年 9 月号, pp.190-201.
「パーリ・トゥードと三人小説」, 『イマーゴ』1996 年 11 月号, pp.10-13.
「イリヤ・カバコフ展 シャルル・ローゼンタールの人生と創造」, 『比較文学研究』第 76 号, 2000 年 8 月, pp.144-148.
「シミュレーションが現実を虚構色に染め上げる(比喻ではない!)」, 『岩波講座文学 8 超越性の文学』月報 9, 2003 年 8 月.
「日常言語を超える思想 パートランド・ラッセル百周年」, 『図書』2005 年 11 月号, pp.8-11.
「必然 と 偶然 からの福本伸行論」, 『ユリイカ』2009 年 10 月号, pp.81-92.
「名前のない顔のないもの」, 『ユリイカ』2013 年 4 月号, pp.202-207.

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

青山学院女子短期大学英文学科(1988~93年度), 東京大学教養学部教養学科(1992~96年度),
跡見学園女子大学美学美術史学科(1996~98年度), 千葉大学教育学部(1997~99年度),
名古屋大学情報文化学部(1999~2001年度), 学習院大学大学院法学研究科(2005年度),
大阪芸術大学大学院芸術文化学専攻(2005~2007年度), 千葉大学文学部(2008年度),
東京大学文学部(2012, 2014年度)

(2) その他

1992 年度~1994 年度 国際日本文化研究センター共同研究員
1997 年 8 月~1998 年 3 月 第 12 期「電力技術研究会」委員(東京電力)
2002 年 12 月~2004 年 12 月 読売新聞 読書委員
2007 年 8 月~2009 年 7 月 大学入試センター 法科大学院適性試験 作題委員